健康サポート薬局の将来

座長
日本薬剤師会地域医薬品提供体制対策委員会委員長
髙田弘子
福岡市薬剤師会会長
田中泰三

2015年「患者のための薬局ビジョン」が策定され、薬剤師・薬局のあるべき姿が示された。本ビジョンは、患者本位の医薬分業の実現に向けて、かかりつけ薬剤師・薬局の本来の姿を明らかにすると共に、中長期視野に立って、現在の薬局をかかりつけ薬局に再編する道筋を提示するものである。本ビジョンの流れを汲み、16年に健康サポート薬局の認定制度が始まった。

健康サポート薬局とは、厚生労働大臣が定める一定基準を満たしている薬局として、かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、市販薬や健康食品に関することはもちろん、介護や食事・栄養摂取に関することまで気軽に相談できる薬局のことである。また、健康サポート薬局は安心して立ち寄り易い身近な存在として、多職種と連携し、地域住民の相談役の一つとしての役割を果たすことが求められている。

本分科会では、基調講演として、国の立場から厚生労働省医薬・生活衛生局担当官に「健康サポートに向けたこれからの薬局像」と題し講演いただく。認定制度としての「健康サポート薬局」だけに捉われず、健康サポートという角度から今後の薬局の目指すべき将来像を示していただく。

続いてシンポジスト３人による、それぞれの切り口による健康サポート薬局の将来を提案していただく。まずは、日本薬剤師会地域医薬品提供体制委員会の山田武志副委員長による、「健康サポート薬局の現状と今後の課題～薬機法改正を踏まえた健康サポート薬局の将来～」を、次に埼玉県薬剤師会の宮野廣美常務理事による「かかりつけ機能と健康サポート機能の２つの機能で住民の健康を守る」を、最後に福岡県薬剤師会の小田真稔専務理事による「患者から選択される薬局機能強化事業―患者目線からの調査分析―」を講演いただく。薬機法改正後における健康サポート薬局のあり方や将来像、今後の課題について議論を深めていき、何等かのアンサーを導き出したい。

（田中泰三）

地域に根ざした薬局の新たな取り組み

座長
日本薬剤師会常務理事
長津雅則
福岡県薬剤師会理事
石井裕太

改正薬機法により薬局は調剤業務を行う場所ではなく、薬に関する情報提供と指導を行う場所として定義され、医薬品を渡すだけの対物業務から情報提供やフォローアップも含めた対人業務へ大きくシフトしていった。世間に目を向けると、インターネットの普及によりネットを通じて容易に様々な医薬品情報等が誰にでも引き出せる現在、その情報を正しく精査し正確に情報提供できるのは薬剤師しかいない。

本分科会では、基調講演として「目指すべき薬剤師・薬局の姿」と題し日本薬剤師会の田尻泰典副会長に、改正薬機法をベースに、薬剤師が本来の役割を果たし、地域の患者を支援するための医薬分業の今後のあり方について講演をいただく。

次に「コミュニティファーマシー（地域に根ざした薬局）の取り組み」と題し日本コミュニティファーマシー協会の吉岡ゆうこ代表理事から、健康サポート機能を有しているドイツの薬局事情と日本の薬局機能を融合し、地域に根ざした新たな薬局作りの取り組みについて紹介していただく。

次に「薬局についてみんなで考える」と題し薬局支援協会の竹中孝行代表理事から「みんなで選ぶ薬局アワード」を設立した経緯や、全国の薬局の様々な先進的取り組みを紹介する活動について報告していただく。

次に「小さな薬局のニッチャー戦略～コンテンツマーケティングの紹介～」と題してＡＫＡＮＥ株式会社はなのゆ薬局の中山茜代表取締役に一人薬剤師の小さな薬局でも地域に特化し薬を提供するだけでなく、コンテンツマーケティングの考え方を取り入れ、薬局経営を成り立たせている事例を報告していただく。

最後に「24時間対応薬局の役割と業務」と題し八幡薬剤師会の大石博美理事から、24時間年中無休の無菌調剤室を完備した薬局としての役割と、今後の進むべき方向性について紹介していただく。

その後シンポジストの先生方を交え参加者の皆様で地域に根ざした新たな薬局づくりと薬剤師について討論することとしたい。

（石井裕太）

災害時の薬剤師の役割 ～体制整備と支援活動～

座長
日本薬剤師会理事
山田卓郎
福岡県薬剤師会理事
仙敷義和

大規模災害発生時に備え、各都道府県薬剤師会は災害対応マニュアルや、緊急事態に対する業務継続計画（ＢＣＰ）を策定されていることと思われる。被災地では、災害医療ボランティアによる支援活動において薬剤師の果たす役割は重要となっている。

本分科会では災害時における薬剤師の役割について、被災地がどのように体制を整備するのか、災害支援に参加する薬剤師がどのように支援活動を行えばよいのかについて、体験談を交え講演いただく。

基調講演では、「大規模災害時に求められる薬剤師の役割」と題して、福岡大学薬学部臨床薬学研究室教授であり、災害医療コーディネーターの資格を有する江川孝氏から、薬剤師が被災地でどのように他職種と連携をとり、その役割が発揮できるのかについて講演いただく。

次いで、宮城県薬剤師会の髙橋文章常任理事から「医薬品の流通と体制整備」と題し、10年前の震災時における災害派遣での他職種連携等の課題について、また2019年台風19号による災害派遣でどのように連携改善や進歩があったのかについて講演いただく。

次いで、熊本県薬剤師会の寺元栄一常務理事から「コロナ禍での災害支援活動」と題して、昨年７月新型コロナウイルス感染症拡大期に起きた豪雨災害時の薬剤師による支援活動について、体験をもとに浮かび上がったコロナ禍での災害支援時の問題点や課題について講演いただき、また熊本地震後に購入したモバイルファーマシー（ＭＰ）を活用した支援活動についても紹介していただく。

最後に、大分県薬剤師会の伊藤裕子理事から「大分県薬剤師会におけるＭＰの活用」と題して、７年前に購入したＭＰによる２回の活動実績（熊本地震時・九州北部豪雨）での経験や課題、また平時での活用方法等について講演いただく。

今回の各演者の所属薬剤師会（福岡・宮城・熊本・大分県）はＭＰを所有している。今後ＭＰの導入を検討している県、地区は質問を積極的にぜひ行っていただきたい。

（仙敷義和）

薬剤師業務とＤＩ活動

座長
日本薬剤師会副会長
川上純一
福岡県薬剤師会薬事情報センター室長
神雅子

薬機法の改正により薬局の定義が改正され、薬局は「調剤の業務を行う場所」に加えて「薬剤及び医薬品の適正な使用に必要な情報の提供及び薬学的知見に基づく指導の業務を行う場所」であることが明確にされた。また、認定薬局制度においては、地域の医療提供施設に対して医薬品の適正使用に関する情報を広く提供し、地域の医薬品情報室としての役割を果たすことが求められている。

病院薬剤師による情報提供に、情報管理の場としてＤＩ室が必要なように、今後地域医療の中で薬局の機能を発揮させるためには、薬局薬剤師のＤＩ活動の充実が求められる。ＩＣＴの進展により、医療従事者や患者が扱える情報量は飛躍的に増大したが、薬剤師は最新の情報を入手・評価し、患者や医療従事者などの対象者に応じて、的確な情報を提供することが求められる。

本分科会では、基調講演として、「医薬品情報の特性と情報源―情報リテラシー力を高める―」と題し、熊本大学大学院生命科学研究部（薬学系）の山本美智子客員教授に、情報を使いこなすための基本的な情報検索の手順や探し方の概説と、医薬品情報の現状や課題および今後の展望について講演いただく。

医薬品医療機器総合機構（ＰＭＤＡ）の田島康則課長には、ＰＭＤＡが提供している医薬品情報の利活用のために、医薬品情報の種別の特徴や入手方法について、杏林大学医学部付属病院薬剤部の若林進薬剤科長には、病院薬剤師のＤＩ業務として、ＤＩ業務のＩＣＴ化やリスクマネジメント、ＡＩへの展望について講演いただく。

さらに、薬局薬剤師の立場としてパスカル薬局の横井正之氏からは、「薬学６年制下における薬局薬剤師の医薬品情報活用の事例とその意義」と題して、事例をもとに、それぞれの医薬品情報を臨床現場でどのように活用するかお話いただく。最後に今後薬剤師が、地域医療の中でＤＩ活動をどのように行っていくか討論したい。

（神雅子）

薬局から研究を発信しよう!

著　尾関 佳代子（薬剤師、医学博士）　A5判/158頁/定価2,420円（本体2,200円+税）

薬局薬剤師として活躍する傍ら、大学で研究を続ける著者の実体験に基づき、「研究を行う意義」「研究の始め方」「学会発表」「論文作成・掲載」などについてわかりやすく解説。

- 「疫学・統計」の基礎をやさしく解説！
- 研究の進め方をイメージできる！
- 論文掲載までのプロセスがわかる！

薬事日報社　書籍のご注文は、オンラインショップ（https://yakuji-shop.jp/）または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

当ファイルの著作権は㈱薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル（印刷物含む）の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル（印刷物含む）を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。
株式会社薬事日報社　TEL:03-3862-2141　shinbun@yakuji.co.jp　http://www.yakuji.co.jp/